

五月

どうしても、気になってしまう。無意識のうちにチェックしてしまう。わたしにとって、ポケットはなくてはならないものである。このシーズンは服のデザインポイントとしてポケットがとても流行しているの、どこでも見かけるから嬉しい。最近見たポケットで一番印象に残っているのは、京都のギャラリーで織物の個展をしていた方が着ていた、紺色のワンピースの前面にいろんな大きさをランダムに縫い付けられた、ピンク色のポケット群だ。ずっと以前のマリメッコのものだとうかがった。さすが、マリメッコ！

流行が去った後には、反動でポケットが一気に流行遅れに見えてしまうんじゃないかと実は今から心配している。ファッションは移り気なものだから、ある日突然その日が訪れるのではないか・・・そうになったら、以前からあまりみかけなくなっていたスカートについているポケットは、絶滅に瀕してしまうのではないだろうか？このジャーナルを読んでいるアパレル業界の方々、お願いですからどうかポケットの存在を忘れないでください。ついでにもうひとつ付け加えると、ポケットの内部に十分な空間を確保してください。ポケットは、一番身体に近い異次元空間への扉なのである。ポケットに入れたビスケットがどんどん増えていくという内容の歌詞の日本の童謡は、そういったポケットの本質をすどく突いている。それだけでなく、ポケットには小さなかばんの様な役割もあって（こちらの機能の方が主流かもしれないが）、鍵やハンカチやメモなんかを保管しておくのにこのうえなく重宝する。

いつの時代にも流行に関係なくポケットをたくさんつけていて、現在では世界中の人々に年齢や性別の差なく愛されている服がある。それがジーンズである。通常は5つポケットがついている。すばらしい！異次元への扉が5つも1本のズボンにくっついているのだ！フォーマルな場所こそ着ていくと周りから白い目で見られるけれど、普段着としては機能においてもデザインにおいても言うことなし、こんな服って他にはちょっと思い当たらない。このプロジェクトの作品のモチーフとして、わたしの周囲の人々からジーンズを借用している。今のところ5本集まってきた。日々の忙しい仕事の合間に、これらのジーンズと同じサイズのものをコットンオーガンドイーで製作している。しかし・・・まだ最初の1本目、わたしがチェスターではいていたコーデュロイ・ジーン

ズをモデルにしたものに着手したところである。次のジャーナルまでに数を増やしていきたいものだ。

英国から日本に来た2人目のアーティスト、アイリッシュ・ウィルソンさん(Ealish Wilson)に来日直後に京都のギャラリーで会った。彼女は実はマキシーンさんの教え子だったのだ。今度会ったら、その頃のことを聞いてみよう。

新田恭子